

日本入学習者における英語の関係代名詞の格と関係 詞節構造の意味構築パターン

大津, 隆広
九州大学大学院言語文化研究院

<https://doi.org/10.15017/4268>

出版情報：言語文化論究. 12, pp.95-104, 2000-08-31. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

日本人学習者における英語の関係代名詞の格と 関係詞節構造の意味構築パターン

大津 隆 広

1. 序

大津 (2000) では、日本人学習者が英語の関係詞節構造を理解する際に用いる意味構築のパターンを調べ、話された場合の非制限的用法の関係詞節構造のみ、特定の意味構築パターンが共有されていないことを指摘した。本稿の主要な目的は、話された英語の場合のそうした意味構築の不確かさが関係代名詞の格の違いにおいて一様なものであるのかを詳細に調べることにある。第2章では、書かれた英語と話された英語における関係詞節構造の意味構築パターンを関係代名詞の3つの格（主格・所有格・目的格）において個別に調べる。第3章では、関係代名詞の格の違いにより日本人学習者の意味構築パターンの定着度に違いがある理由を考察する。

2. 関係代名詞の格の違いによる関係詞節構造の理解

2.1. 書かれた英語における意味構築パターン

(1) 目的

本実験の目的は、書かれた英語における関係代名詞の格と関係詞節構造の意味構築パターンの関係を調べ、その定着の度合いを探ることにある。

(2) 被験者

九州大学一年次の日本人学生48名を対象とした。彼らにおいて、関係詞節の構造と意味がすでに理解されていることを確認した。

(3) 資料

次のように、関係詞節の用法、位置、関係代名詞の格の点で異なる12タイプからなる36の例文を使用した。（その他の例文については Appendix の実験資料1を参照。）

- (1) a. Half of the people who were invited to the party didn't turn up.
- b. The book whose name I've forgotten was borrowed by Mary.
- c. All the paintings that he collected are now on sale.
- d. What's the name of the tall man who just came in?
- e. Chicago is a city whose attractions are many.
- f. Yesterday I came across an old friend whom I had not seen for years.
- g. Ms. Rogers, who is joining the firm next week, is calling us.
- h. Mrs. Taylor, whose children we used to play with, passed away.
- i. Except for his uncle, whom he lived with for ten years, he had no intimate

friends.

j. In 1908 Ford developed his Model T car, which sold for \$500.

k. I saw a house among the trees, whose roof shone in the sun.

l. I poured him a glass of wine, which he drank at once.

(4) 方法

被験者にランダムに並べられた36の英文からなる資料を配布し、45分間でその意味を日本語で書き取らせた。実験を行う前に、英単語の意味にあまり神経質にならないこと、必要以上に時間をかけないことを被験者に伝えた。

(5) 結果

表1は12タイプの関係詞節構造別に被験者全体のデータを合計して、2つの意味構築パターン（「先行詞⇒関係詞節」と「関係詞節⇒先行詞」）の割合を表したものである。

表1 書かれた英語における関係代名詞の格と意味構築パターン¹

関係詞節 の用法	関係詞節 の位置	関係代名 詞の格	意味構築のパターン		
			先行詞⇒関係詞節	関係詞節⇒先行詞	その他
制限的 用法	文中	主格	0%	97.5%	2.5%
		所有格	4.6%	92.8%	2.6%
		目的格	0%	99.6%	0.4%
	文末	主格	2.0%	94.7%	3.3%
		所有格	3.1%	96.2%	0.7%
		目的格	0%	94.1%	5.9%
非制限的 用法	文中	主格	51.1%	43.1%	5.8%
		所有格	49.6%	41.6%	8.8%
		目的格	37.8%	37.8%	24.4%
	文末	主格	85.6%	14.4%	0%
		所有格	80.7%	17.6%	1.7%
		目的格	70.1%	26.6%	3.3%

制限的用法の場合、関係詞節の位置、関係代名詞の格の種類に関わらず、「関係詞節⇒先行詞」の意味構築パターンが優勢である。さらに、t検定により2つのパターンの差が有意であることが証明された（文中の関係詞節において、それぞれ関係代名詞が主格、所有格、目的格の順に、 $t=39.27$, $df=47$, $p<0.01$ 、 $t=18.43$, $df=47$, $p<0.01$ 、 $t=40.44$, $df=47$, $p<0.01$ 、文末の関係詞節の場合にはそれぞれ、 $t=19.22$, $df=47$, $p<0.01$ 、 $t=25.87$, $df=47$, $p<0.01$ 、 $t=8.94$, $df=47$, $p<0.01$ ）。

一方、非制限的用法では、文末に置かれた関係詞節の場合には明らかに「先行詞⇒関係詞節」の意味構築パターンが優勢であるが、文中の場合には必ずしもそうであるとは思われない。t検定により、2つのパターンの差を観察すると、やはり文末の場合には差が有意であることが観察された（ $t=9.87$, $df=47$, $p<0.01$ 、 $t=6.67$, $df=47$, $p<0.01$ 、 $t=4.34$, df

1 このデータは、大津（2000）の実験1の資料の一部を変えて新たに行った実験から得たものである。意味構築パターンの「その他」とは英文の意味が理解できなかったり、意味構築のパターンがどちらにも判断できなかったものを表している。

=47, $p < 0.01$)。しかし、文中では、どの格をもつ関係代名詞においても関係詞節構造の意味構築パターンには有意な差は観察されない ($t = 0.12$, $df = 47$, $p > 0.05$ 、 $t = 0.40$, $df = 47$, $p > 0.05$ 、 $t = 0.47$, $df = 47$, $p > 0.05$)。²

2.2. 話された英語における意味構築パターン

(1) 目的

本実験の目的は、話された英語における関係代名詞の格と関係詞節構造の意味構築パターンの関係を調べ、その定着の度合いを探ることにある。

(2) 被験者

九州大学一年次の日本人学生39名を対象に行った。彼らの英語の聴解力について、中学校、高等学校および大学での教育以外には特別な訓練を受けてはいないことを確認した。

(3) 資料

イギリス人の英語母国語話者によりナチュラルスピードよりもやや遅めに録音された次のような英文58例を使用した。³ これらは、2.1.の実験同様、関係詞節の用法、位置、関係代名詞の格の点から12タイプに分けることができる。例文には比較的平易な英単語を用い、文の長さがほぼ均等になるように努めた。(その他の例文については Appendix の実験資料2を参照。)

- (2) a. The street which leads to the school is very narrow.
- b. A woman whose husband is dead is called a widow.
- c. The glass that you are drinking out of hasn't been washed.
- d. The man had a dog which barked loudly at everybody.
- e. Have you ever seen an animal whose fur changes color?
- f. Golf and tennis are sports you can enjoy until you are old.
- g. My brother, who has lived in America for 30 years, can still speak French.
- h. My son, whose major was mathematics, is a high-school teacher.
- i. My pen pal, whom I have been writing to for two years, is coming to Japan next month.
- j. Yesterday I met your brother, who told me your mother was ill.
- k. Yesterday I attended the meeting, whose members were limited to men.
- l. Did you read Mary's report, which I left on your desk?

また、被験者に配付した資料には、58例を通して先行詞にあたる語彙と関係詞節内で用いられる語彙 (例えば、(2) a の場合には street と school) がランダムに並べられている。

(4) 方法

LL 教室にて、ヘッドセットを通して英文を二度聞いた後、配布した資料の中の語彙を使

2 大津 (2000) のデータでは、文中に用いられた非制限的用法の関係詞節構造の場合、「先行詞⇒関係詞節」の意味構築パターンが優勢で、かつ2つのパターンには有意な差が観察された。本実験でのデータの数とその2倍であることを考えると、本実験での結果の信憑性が高いと言えそうである。また、他の構造においては、大津 (2000) と本実験での結果には相違がないことから考えると、文中の非制限的関係詞節構造の意味構築パターンには学習者個人によるばらつきがあると言える。

3 実験で使用する例文を録音していただいた九州大学大学院言語文化研究院外国人教師 Alastair Horne 氏に感謝します。

って意味を構築する際に最初に使用した方を15秒以内でマークし、英文の意味そのものが理解できなかった場合には、それを示すためのマークをするよう被験者に指示した。この方法により、英文を聞いた際に、先行詞と関係詞節をどのような順序で理解しようとしたかが調査できると推察される。

(5) 結果

表2は12タイプの関係詞節構造別に被験者全体のデータを合計して、2つの意味構築パターンの割合を表したものである。

表2 話された英語における関係代名詞の格と意味構築パターン⁴

関係詞節 の用法	関係詞節 の位置	関係代名 詞の格	意味構築のパターン		
			先行詞⇒関係詞節	関係詞節⇒先行詞	その他
制 限 的 用 法	文 中	主 格	13.8%	80.5%	5.7%
		所 有 格	23.1%	67.7%	9.2%
		目 的 格	10.8%	86.2%	3.0%
	文 末	主 格	32.8%	62.6%	4.6%
		所 有 格	38.0%	57.4%	4.6%
		目 的 格	24.1%	66.7%	9.2%
非制限的 用 法	文 中	主 格	36.9%	48.2%	14.9%
		所 有 格	38.5%	53.8%	7.7%
		目 的 格	15.4%	77.6%	7.0%
	文 末	主 格	53.8%	35.9%	10.3%
		所 有 格	53.8%	35.9%	10.3%
		目 的 格	46.2%	44.6%	9.2%

制限的用法の場合、関係詞節の位置と関係代名詞の格の違いに関わらず、「関係詞節⇒先行詞」パターンによる意味構築が優勢であることが表されている。つまり、関係代名詞の格の違いにまで踏み込んで調べても、特定の意味構築パターンが優勢であることには変わりはないことになる。t検定によれば、文中に用いられた制限的用法の関係詞節構造の場合、両者の意味構築のパターンには有意な差が観察されることから、「関係詞節⇒先行詞」のパターンがかなり高い確率で学習者に共有されていることがわかる（関係代名詞が主格、所有格、目的格の順に、 $t=10.60$, $df=38$, $p<0.01$ 、 $t=7.08$, $df=38$, $p<0.01$ 、 $t=10.45$, $df=38$, $p<0.01$ ）。また文末の場合にも同様のことが言える（関係代名詞が主格、所有格、目的格の順に、 $t=3.95$, $df=38$, $p<0.01$ 、 $t=2.46$, $df=38$, $p<0.05$ 、 $t=5.24$, $df=38$, $p<0.01$ ）。一方、非制限的用法では、文中で関係詞節が用いられた場合には、制限的用法と同様のパターンによる意味構築、文末で用いられた場合には、「先行詞⇒関係詞節」のパターンによる意味構築がやや優勢である。

話された英語に関する非制限的用法のこうした傾向は大津（2000）での指摘と合致するが、意味構築パターンの差が有意なものであるかどうかをt検定により調べてみると、関係代名詞の格により異なることがわかる。まず、文中で用いられた非制限的用法の関係詞節

4 本実験のデータは、大津（2000）の実験2のデータに今回新たに19名分のデータを加えたものである。意味構築パターンの「その他」とは英文の意味を聞き取ることができなかったことを表している。

構造において、目的格の関係代名詞をもつ構造では実際に2つの意味構築パターンの差が有意であると観察された(主格、所有格、目的格の順に、 $t=1.20$, $df=38$, $p>0.05$ 、 $t=1.51$, $df=38$, $p>0.05$ 、 $t=7.72$, $df=38$, $p<0.05$)。また、文末で用いられた場合には、主格の関係代名詞をもつ構造のみに有意性が観察された(主格、所有格、目的格の順に、 $t=2.50$, $df=38$, $p<0.05$ 、 $t=1.94$, $df=38$, $p>0.05$ 、 $t=0.66$, $df=38$, $p>0.05$)。

以上により、非制限的關係詞節の場合、文中に用いられた目的格の關係代名詞をもつ關係詞節構造では「關係詞節⇒先行詞」による意味構築パターン、文末に用いられた主格の關係代名詞をもつ關係詞節構造では「先行詞⇒關係詞節」による意味構築パターンがそれぞれ日本人学習者に高い確率で共有されていることが推察される。

3. 考察

2.1. において、書かれた英語の場合には、話された英語に比べて英語教育の場で教えられる關係詞節構造の理解のパターンが定着していることを読み取ることができる。しかし、文中で用いられる非制限的用法の關係詞節構造において意味構築パターンが共有されていないのは、日本語で意味構築を行うために、「先行詞⇒關係詞節」のような日本語表現に馴染まない意味構築を避けることが英文の読解においても起こるからであると考えられる(大津(2000:39))。

次に、2.2. で明らかになったことは、意味構築パターンが一様に不確定に見えた話された英語による非制限的用法の關係詞節構造においても、文中で用いられた目的格の關係代名詞をもつ關係詞節構造と文末で用いられた主格の關係代名詞をもつ關係詞節構造では、他の格の關係代名詞をもつ場合に比べて、2つの意味構築パターンの差が有意であるということである。

文中で用いられた目的格の關係代名詞をもつ非制限的用法の場合も、他の格の關係代名詞をもつ場合と同様に、「先行詞⇒關係詞節」パターンによる意味構築が日本語として馴染まないために、被験者の大半はしばしば(3)を聞いた場合、制限的用法と同様の意味構築を行う傾向にあると言える。

(3) a. Dorothy, whom the police were looking for, was found to be dead.

b. My pen pal, whom I have been writing to for two years, is coming to Japan next month.

それでは、目的格の關係代名詞の場合だけ2つの意味構築パターンの差が有意なのはなぜであろうか。それには、日本語による意味構築の容易さに加えて、關係詞節そのものの同定の容易さが働いていると言える。目的格の關係代名詞をもつ場合に、關係代名詞を挟んで、「名詞(句)+名詞(句)」という不自然な連鎖を聞き取ることで關係詞節の始まりを察知するために、制限的用法と同様の意味構築パターンが加速されるのではないかと考えられる。

また、主格の關係代名詞をもつ文末に用いられた非制限的用法の關係詞節構造が、同じ用法の他の格をもつ場合とは異なり、2つの意味構築パターンの差が有意であるのにも理由があると考えられる。

(4) a. Yesterday I met your brother, who told me your mother was ill.

b. Mary thanked her teacher, who had been very helpful to her.

学習者は英文(4)を聞きながら、関係代名詞を挟んで「名詞 (句)+動詞 (句)」という文の基本単位となる連鎖があることを察知すると考えるのは自然であろう。それにより、(4)aでは“Yesterday I met your brother, and your brother told me your mother was ill.”、(4)bでは“Mary thanked her teacher, and her teacher had been very helpful to her.”のような2つの情報としての理解が他の格の関係代名詞が用いられた場合よりも円滑に行われ、結果的に「先行詞⇒関係詞節」による意味構築パターンの共有が促進されると考えられる。

このように、特に話された英語の場合、学習者において意味構築パターンが共有されるためにはいくつかの要因が関係していると言える。文中で用いられた主格の関係代名詞をもつ非制限的關係詞節構造が日本語の意味構築に馴染んだ「関係詞節⇒先行詞」のパターンの共有を許さないのは、関係代名詞を挟んだ「名詞 (句)+動詞 (句)」の連鎖が逆の意味構築パターンを同時にひき起こすためである。また、文末で用いられた目的格の関係代名詞をもつ非制限的關係詞節構造が「先行詞⇒関係詞節」のパターンの定着を許さないのは、「名詞 (句)+名詞 (句)」という連鎖がひき起こす意味構築パターンとの衝突によると考えられる。

4. 結語

本稿では、大津(2000)での実験をさらに発展させ、意味構築パターンが一様に不確定に見えた話された場合の非制限的用法の關係詞節構造の理解においても、関係代名詞の格により意味構築パターンの定着の度合いに違いがあることを指摘した。

また、話された英語の場合と同様に、書かれた英語の場合にも、文中で用いられた非制限的用法の關係詞節構造では、日本語による意味構築の容易さが意味構築パターンの定着に関係しているという新たな結果が導かれた。

参考文献

- 荒木一雄(編) 1984. 『英文法用例辞典』 研究社
- Bache, Carl and Leif K. Jakobsen. 1980. On the distinction between restrictive and non-restrictive relative clauses in modern English. *Lingua* 52. 243-267.
- Bernardo, Robert. 1979. The Function and content of relative clauses in spontaneous oral narratives. *BLS* 5. 539-551.
- Loetscher, Andreas. 1973. On the role of nonrestrictive relative clauses in discourse. *CLS* 9. 356-368.
- Lucas, Michael A. 1974. The surface structure of relative clauses. *Linguistics* 139. 83-120
- 水口志乃扶 1980. 非制限的關係詞節の機能について『英語学』23. 68-83.
- 長原幸雄 1990. 『関係節』大修館書店
- 大津隆広 1989. 談話における非制限的關係詞節の機能『英語学の視点』、223-238. 九州

大学出版会

-----2000. 日本人学習者における英語の関係詞節構造の理解に関する一考察『言語科学』第35号、35-46. 九州大学言語文化部言語研究会

Phillips, Brian. 1977. Discourse structure and non-restrictive relative clauses. *LACUS* 3. 368-375.

斎藤武生他（編）1995.『英文法への誘い』開拓社

Appendix

実験資料 1

- 1-1 Every girl that came to see the popular singer was a teenager.
- 1-2 Half of the people who were invited to the party didn't turn up.
- 1-3 The only thing that keeps me awake is coffee.
- 1-4 The book whose name I've forgotten was borrowed by Mary.
- 1-5 The meeting whose purpose we don't understand should be put off.
- 1-6 The girl whose beauty has taken my breath away before is watching me now.
- 1-7 All the paintings that he collected are now on sale.
- 1-8 Any paper that you read will give you the same story.
- 1-9 The woman whom I marry will have a good sense of humor.
- 2-1 Paintings by Renoir realized record prices in the sale which took place at Sotheby's in London yesterday.
- 2-2 A peaceful world cannot be built on a basis of populations that enjoy fighting and killing.
- 2-3 What's the name of the tall man who just came in?
- 2-4 Chicago is a city whose attractions are many.
- 2-5 He looked for a car whose engine was running.
- 2-6 I've got some friends whose house looks over a river.
- 2-7 Yesterday I came across an old friend whom I had not seen for years.
- 2-8 In some areas of Britain, unemployment is a fact of life that people have grown accustomed to facing.
- 2-9 This is the cutest baby that I have ever seen.
- 3-1 In these theaters the audience, which is often seated arena style, may view plays that represent the new movements in dramas.
- 3-2 Some London policemen, who are well known for their politeness and helpfulness, were sent to America on a goodwill visit.
- 3-3 Ms. Rogers, who is joining the firm next week, is calling us.
- 3-4 Mrs. Taylor, whose children we used to play with, passed away.
- 3-5 Michel Croz, with whose help Whymper climbed the Matterhorn, was one of the first professional guides.

- 3 - 6 The teddy-bear, whose eyes are missing, is thrown away into the river.
- 3 - 7 Foreign visitors find that English weather, which they often associate with fog and rain, is not so bad as they had supposed.
- 3 - 8 Except for his uncle, whom he lived with for ten years, he had no intimate friends.
- 3 - 9 Ms. Rogers, whom you met yesterday, has been learning French for two years.
- 4 - 1 I sent the letter to Tom, who passed it on to Fred.
- 4 - 2 This is Mr. Rogers, who is joining the firm next week.
- 4 - 3 In 1908 Ford developed his Model T car, which sold for \$500.
- 4 - 4 I saw a house among the trees, whose roof shone in the sun.
- 4 - 5 I went to see my friends the Forrests, whose children I used to look after when they were small.
- 4 - 6 Yesterday I saw Mary, whose hair came down to her waist.
- 4 - 7 This is Mr. Cash, whom you have heard much about.
- 4 - 8 She went to work with my brother, whom she later married.
- 4 - 9 I poured him a glass of wine, which he drank at once.

実験資料 2

- 1 - 1 The student who finishes the exam first does not always get the best grade.
- 1 - 2 The street which leads to the school is very narrow.
- 1 - 3 The man who can help us is Mr. Johnson.
- 1 - 4 The people who live next door are having all-night parties.
- 1 - 5 People who take physical exercise live longer.
- 1 - 6 The book whose cover is torn is mine.
- 1 - 7 A woman whose husband is dead is called a widow.
- 1 - 8 Those students whose names have been called may begin their exams.
- 1 - 9 The investigation whose results will soon be published was made by two scientists.
- 1 - 10 The book whose content we are going to discuss is on the desk.
- 1 - 11 The car that the President was riding in was continually being stopped by the crowds.
- 1 - 12 The man I was waiting for didn't turn up.
- 1 - 13 These photographs that you have been looking at were taken by my sister.
- 1 - 14 The glass that you are drinking out of hasn't been washed.
- 1 - 15 The bed which I sleep in is comfortable.
- 2 - 1 Old age is a problem that should concern us all.
- 2 - 2 That is the very question that has long been in my mind.
- 2 - 3 The man had a dog which barked loudly at everybody.
- 2 - 4 Thousands of houses were destroyed by the fire that followed the earthquake.

- 2-5 New York is a place which attracts young people especially.
- 2-6 Basketball is the only sport whose exact origin can safely be stated.
- 2-7 That's the man whose daughter John is going to marry.
- 2-8 That's the company whose employees are paid the most.
- 2-9 Have you ever seen an animal whose fur changes color?
- 2-10 This is a proverb whose meaning I cannot understand.
- 2-11 Yesterday I met Mr. Thomas whom I had not seen for several years.
- 2-12 I can assure you that David is a man whom you can trust absolutely.
- 2-13 Man has some gifts which no animals have.
- 2-14 Golf and tennis are sports you can enjoy until you are old.
- 2-15 On my way downtown I came across an old friend I had not seen for years.
- 3-1 Dr. White, who has too great expectations for his son, may be disappointed.
- 3-2 John, who knows the way, has offered to guide us.
- 3-3 The lark, which builds its nest on the ground, has a sweet voice.
- 3-4 My brother, who has lived in America for 30 years, can still speak French.
- 3-5 Dorothy, who does my hair, has moved to another hairdresser's.
- 3-6 My son, whose major was mathematics, is a high-school teacher.
- 3-7 Shakespeare, whose plays are world-famous, lived some four hundred years ago.
- 3-8 The cook, whose cooking skills were learned in France, is expected to be very good.
- 3-9 Some London policemen, whose politeness is well known, were sent to America.
- 3-10 The TV program, whose content you might like, was changed.
- 3-11 The man, whom I was waiting for, had lost his way.
- 3-12 Dorothy, whom the police were looking for, was found to be dead.
- 3-13 The cook, whom I have lost touch with for years, is going to open a new restaurant next week.
- 3-14 My pen pal, whom I have been writing to for two years, is coming to Japan next month.
- 4-1 There were very few passengers, who escaped without serious injury.
- 4-2 Yesterday I met your brother, who told me your mother was ill.
- 4-3 I gave the message to your secretary, who was supposed to pass it on to you.
- 4-4 He was not of the Ned Winter family, who were very respectable people in Ohio.
- 4-5 Mary thanked her teacher, who had been very helpful to her.
- 4-6 I passed through a town, whose streets were paved with stone.
- 4-7 Yesterday I met John, whose mother was seriously ill.
- 4-8 He lost his son, whose innocence he could not forget forever.
- 4-9 Yesterday I attended the meeting, whose members were limited to men.

- 4 -10 Did you read Mary's report, which I left on your desk?
- 4 -11 I sent a love letter to Mary, whom my brother knew very well.
- 4 -12 He wrote her a long letter, which he didn't mail.
- 4 -13 She is going to marry Dick, whom she does not love.
- 4 -14 She married a very nice young architect, whom she met on a bus.